

平成 29 年度市民対話集会会議録 (要約版)

日 時：平成 29 年 10 月 30 日（月） 19 時 00 分
場 所：福社会館 6 階ホール

第8回市民対話集会会議録（要点）

- 1 日時 平成29年10月30日（月）19時00分～20時00分
- 2 場所 福社会館6階ホール
- 3 団体 岡崎市地球温暖化防止隊、岡崎市環境まちづくり市民会議 18名
- 4 内容
 - ① 開会
 - ② 市政ビデオの放映
 - ③ 市長挨拶・説明
 - ④ 団体代表要望・意見等
 - ⑤ その他要望等

（団体要望）

地球温暖化及び日本版首長誓約に対する市長の思いについて

質問

地球温暖化及び平成27年12月の日本版首長誓約について、市長がどのように思っているか伺いたい。

回答（市長）

地球温暖化対策は市民の協力がなければ成り立たないため、市民一人ひとりに改めて事の深刻さを認識していただき、意識革命と行動改革によって地球に優しい生活を送っていただきたいと考えている。この考えのもと、近隣の5市で全国に先駆けて日本版首長誓約を行ったものであり、これを全国に発信して首長誓約の取り組みを広げていくことが、首長誓約第1号としての責務であり目標の一つである。

地球温暖化防止隊への期待について

質問

市は岡崎市地球温暖化防止隊についてどのように思い、また、何を期待しているか伺いたい。

回答（環境部長）

地球温暖化防止隊には、市民を対象に地域に根付いた温暖化防止の啓発活動を行っていただいております、まず御礼を申し上げます。その活動によって市民の生活が見直され、岡崎市から排出される温室効果ガスが少しでも削減できればよいと考えており、今後も市民の先頭を切って引っ張っていただくことを期待しています。

間伐材を使用したバイオマス発電について

質問

バイオマス発電は中央クリーンセンターで既に行われているが、さらに発展させることが必要である。これは電力会社をはじめとした民間と協働で行うことが望ましいと思うが、市としてはどのように考えているか。

回答（市長）

市では現在、中央クリーンセンターで発電される電力をこれまでのように売電するのではなく、公共施設に供給する地域電力小売り事業の立ち上げを検討しており、これを地域雇用の創出や地域経済の活性化につなげたい。また、「額田木の駅プロジェクト」の活動によって森林整備と地域経済活性化の好循環が既に進んでいると考えているが、まだ未利用の森林資源があることは周知の事実なので、その利活用について調査研究を進めていきたい。

岡崎市の公共交通について

質問

移動の手段としての公共交通は、温室効果ガス削減対策として非常に有効である。現在名鉄バスが「1 day フリー岡崎」というフリーバスチケットを販売しているので、これをもっと多くの路線で利用できるようにしたり、販売箇所を増やしたりすることで、利用しやすいものにできないか。

回答（環境部長）

「1 day フリー岡崎」は名鉄バスが運用しているため、この路線を延ばすなどと言った点については回答を控えさせていただきたいが、移動手段としての公共交通は温室効果ガスの削減に非常に大切だと考えている。公共交通機関の利用促進については同じ立ち位置だと思っているので、これからも知恵をお借りし、ともに勉強をしていきたい。

自然を活かしたまちづくりについて

質問

今後の市の事業展開について、新たな試みだけでなく、地球温暖化や美しい自然といった従来から存在する環境の観点も大切にして、公民連携の中でバランスを取って進めていただきたい。

回答（市長）

岡崎の市域の6割は中山間地で、これをいかに活かしていくかということは重要な課題となる。額田の自然景観、自然資産はとても価値あるものなので、それを活かした形でアピールでき、多種多様なニーズを満たせる山間リゾートのような施設を作りたいと考え

ている。そしてこれに、できれば民間の事業者のかたのお力添えをいただきたい。これができれば、市民の生活がさらに豊かになるし、山間地の活用も進むのではないか。

額田の山を守るための施策と指針について

質問

額田の山は間伐が十分でないなど、不健康である。この山々を今後どうしていくのかという点について、施策や指針を示していただきたい。

回答（環境部長）

市の水源である額田の森林が、間伐の不足などによって水源涵養機能を十分に発揮できていないことは把握している。そこで、平成 29 年 2 月に岡崎市水環境推進協議会から出された答申を踏まえて、強度間伐や広葉樹の植林、敷地境界及び森林所有者の明確化、里山の保全、水環境影響調査によるモニタリング、森林の現状を市民に啓発する活動、といった 5 つの取り組みを考えている。

回答（市長）

高齢化によって後継ぎがないという点が、健康な山林づくりが進まない理由の一つであると考え。他の地域では、山の人とまちの人が地域間交流を行っている事例があるので、これによってまちの子どもたちに山の遊びを楽しんでいただきつつ、山林の維持に関わる活動のお手伝いをしていただくような方法がとれたらよいのではないか。